

史跡 斎宮跡

平成10年度現状変更緊急発掘調査報告

平成12年3月

明和町教育委員会

序

史跡斎宮跡では、昭和45（1970）年「幻の宮」斎宮が発見されて以来、約10年毎に大きな節目がありました。

昭和54（1979）年には国史跡に指定され、平成元（1989）年に斎宮歴史博物館が三重県のテーマ博物館として開館しました。

そして、昨年10月には、いつきのみや歴史体験館が開館いたしました。この体験館の開館によって、いままで来訪者の多くが斎宮歴史博物館を見学するだけであったのが、最近ではいつきのみや歴史体験館で歴史体験し、さらに史跡公園等を散策するなど、通過型から1日もしくは半日の滞在型に変わりつつあります。今後、多くの人が史跡斎宮跡に親しんでいただけるよう町としても便益施設や駐車場などを整備していかなければいけないと考えています。

さて、このように着々と斎宮跡の保護・保存・活用が進められている一方で、137haに及ぶ広大な史跡内に約600世帯に及ぶ住民が生活していることから、生活に結びつく現状変更等許可申請が毎年数多く提出されます。

この報告書は、平成10年度に30件提出された申請の中で事前調査が必要であった4件についての結果をまとめたものであります。現状変更に伴う調査は、第125-1次調査のように比較的まとまった面積の調査や、第125-2次調査のように幅が狭く延長が約600mに及ぶものなど規模はさまざまありますが、これらの成果の積み重ねが斎宮跡の全貌をより鮮明にするものと期待しております。

最後になりましたが、発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者のみなさま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究担当の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成12年3月

明和町教育委員会

教育長 中山正美

例 言

- 1 本書は、明和町教育委員会が平成10年度に実施した史跡斎宮跡の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。
なお、第125-1・3次の発掘調査は国庫及び県費の補助金の交付を受けて実施したものであり、第125-2・4次の調査は、原因者が費用を負担して実施したものである。
- 2 調査は明和町教育委員会が調査主体となり、斎宮歴史博物館調査研究担当が実施した。
- 3 遺構の実測にあたっては、国土調査法による第Ⅵ座標系を基準とし、方位は座標北を用いた。
- 4 遺構の時期区分は、「斎宮跡の土師器（三重県斎宮跡調査事務所年報1984）」による。
- 5 遺構表示記号は、次のとおりである。
SB；竪穴住居・掘立柱建物 SE；井戸 SK；土坑 SD；溝
- 6 特に標示がない限り、遺物の実測図は実物の4分の1、遺物写真は約3分の1である。
- 7 調査の実測図・写真等の関係書類及び出土遺物は、斎宮歴史博物館で保管している。
- 8 現地の発掘調査及び本書の作成には、斎宮歴史博物館調査研究担当の駒田利治、上村安生、大川勝宏、角正芳浩、石湖誠人、明和町教育委員会斎宮跡対策課の中野敦夫、西尾仁志があたった。
また、遺物整理等に当たっては島村紀久子、西村秋子、杉原泰子及び松月浩子、八木光代の協力を得た。

目 次

1 前 言	1
2 第125-1次調査	2
3 第125-2次調査	8
4 第125-3次調査	11
5 第125-4次調査	13
付篇 史跡現状変更等許可申請	15
報告書抄録	19

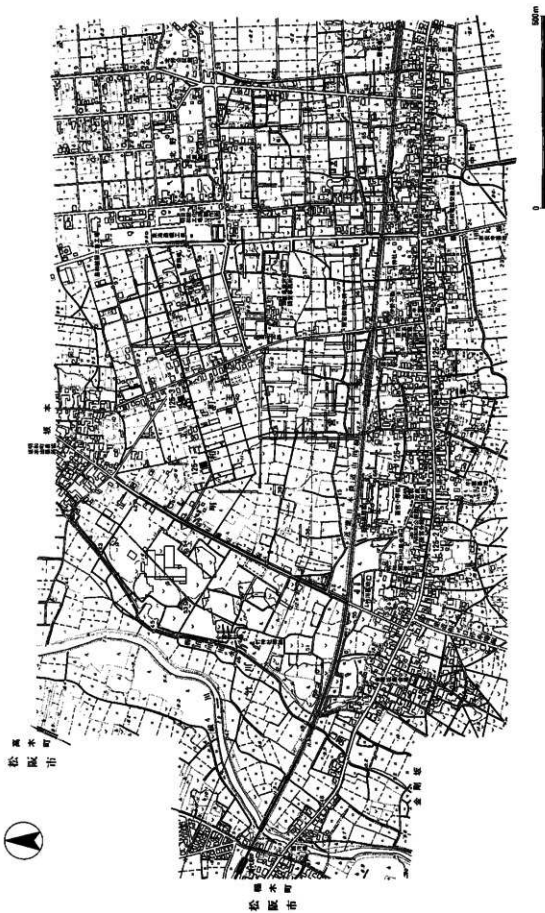
表・挿図目次

〔表〕 1 史跡現状変更等許可申請の推移	1
2 平成10年度現状変更等許可申請一覧表	16
3 堅穴住居一覧表	17
4 遺物観察表	17

〔図〕 1 発掘調査地位置図 (1:10,000)	
2 第125-1次調査 調査区位置図 (1:5,000)	2
3 〃 S B 8100実測図(1:40)	3
4 〃 遺構実測図(1:200)	4
5 〃 遺物実測図(1:4)	6
6 〃 遺物実測図(1:4)	7
7 第125-2次調査 調査区位置図 (1:5,000)	8
8 〃 遺物実測図(1:4)	8
9 〃 土層実測図 1 (1:200)	9
10 〃 土層実測図 2 (1:200)	10
11 第125-3次調査 調査区位置図 (1:5,000)	11
12 〃 遺構実測図(1:200)	12
13 〃 S D 8117土層断面図(1:40)	12
14 〃 遺物実測図(1:4)	12
15 第125-4次調査 調査区位置図 (1:5,000)	13
16 〃 遺構実測図(1:200)	14
17 〃 遺物実測図(1:4)	14

写 真 図 版

P L 1 第125-1次調査	上 ; 調査区全景	下 ; S B 8101・S K 8108・8109
P L 2 〃	上 ; S B 8100遺物出土状況	下 ; S B 8100調査後
P L 3 第125-3次調査	上 ; 調査区全景	下 ; S D 8117
P L 4 第125-4次調査	上 ; 調査区A工区、A工区(2)	下 ; B工区、S K 8123・S D 8124
P L 5 第125次調査	出土遺物	



第1図 発掘調査地位位置図 (1:10,000)

1 前 言

斎宮跡では史跡指定以来毎年50件ほどの現状変更が申請され、指定後20年間で総計920件の件数となっており、その内198件について発掘調査を実施している。平成10年度は例年より比較的少ないとはいえ、30件の申請が提出された。その内容は、史跡内住民による住宅や農業用倉庫の増改築とともに、上水道や排水溝及び道路の改修、新設等であり、申請内容を審査のうえ事前の発掘調査あるいは工事立会いを実施している。しかしながら、調査箇所が限定される等問題点も残されている。ここに報告する緊急発掘調査は、個人の用に供する盛土及び倉庫建設で補助対象事業となった2件と生活環境整備にかかる公共事業2件を原因者負担として発掘調査を実施したものである。

第125-1次調査は、史跡北西部の斎宮歴史博物館東の「歴史の道」沿いで平成9年度に実施した第123-6次調査に引き続き、その南側を調査したものである。調査の結果、奈良・鎌倉時代の集落の存在を確認することができた。

第125-2次調査も、平成9年度に実施した第123-2次調査の延長にある旧参宮街道北端に埋設された水道管の老朽化の布設替工事に伴う調査であり、これまでの工事等で遺構面は攪乱されていた。調査は、現地表から1.4mの深さまで行い、史跡内における調査例の少ない当該地域での東西方向の遺物包含層・地山層の状況を確認するとともに区画側溝も確認することができた。

第125-3次調査は、「歴史の道」北側で実施した調査で、奈良時代の溝を確認し、以前の調査と勘案すると、方格地割と異なる方向の溝が存在していたことが判明した。

第125-4次調査は、史跡西部の近鉄線南側で調査したが、現在の道路と方向を同じくする側溝を確認することができた。

これら史跡現状変更に伴う緊急発掘調査は、様々な制約から必ずしも十分な調査とはいえず、遺跡の保存にとっても少なからず問題を抱えているが、斎宮跡の解明にとっては大きな一助となっており、調査上の制約や調査実施上の困難さを解決する必要がある。

(駒田利治)

年 度	現状変更 申請数	発掘調査 件数	調査面積 (㎡)	補助金事業 調査件数	補助金事業 調査面積(㎡)
S. 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
H. 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	45	6	832	2	452
10	30	4	882	2	396
合 計	920	198	49,715	134	19,438

第1表 史跡現状変更等許可申請の推移

2 第125-1次調査 (6ACC-1)

調査場所 多気郡明和町奈宮字塚山地内
原因 資材置場の整地
調査期間 平成10年4月3日～5月14日
調査面積 336㎡



第2図 第125-1次調査 調査区位置図 (1:5,000)

1) はじめに 今回の調査は、昨年度行われた第123-6次調査に引き続き、史跡北西部に位置する博物館東部の「歴史の道」沿いで実施した。周辺では、奈良時代の竪穴住居を中心とした遺構が分布していることが確認されている。第123-6次調査では奈良時代の竪穴住居や掘立柱建物などが検出されている。調査は、約16m×約22mの面積336㎡で実施した。

2) 調査概要 イ 遺構

検出された遺構には、竪穴住居2棟、土坑3基、溝6条、井戸1基などがある。

(1) 奈良時代の遺構

竪穴住居

S B8100は、調査区の南西隅で検出した。一辺約4.1mのほぼ正方形の竪穴住居である。北辺・西辺および東辺の一部で上幅20cm前後、下幅10cm前後、深さ約5cmの周溝を確認した。主柱穴は径25～40cm、深さ5cm前後の柱穴を3個確認した。カマドは東壁中央で検出しており、カマド中央から土師器甕(4)が出土した。遺物は他に土師器杯(1)・甕(3・5)・長胴甕・筒状土製品(6)などがある。

S B8101は、調査区中央で検出した。東西約4.0m×南北約6.7mの規模である。検出面からの深さは5～10cmである。東壁・西壁で周溝を確認した。周溝は上幅で20cm前後、下幅で15cm前後、床面からの深さは約10cmである。東壁のやや南寄りに焼土がみられることからカマドがあったものと考えられる。

(2) 平安時代の遺構

井戸

S E8111は、調査区東寄りS D8107の南で検出した径約1.5mの素掘り井戸である。複数の土坑と重複する。S E8111はこれらの土坑の底で検出されたため、これらの土坑は井戸廃棄時あるいは廃棄後に掘られたものと考えられる。調査は、約2.2m掘り下げた地点で検出をとどめた。廃棄時に投棄されたと考えられる平安時代後期の土師器杯、山茶碗がまともに出土した。

土坑

S K8110は、S E8111と重複する複数の土坑群のひとつである。長辺1.2m、短辺0.8mでS E8111と同時代の土師器杯、山茶碗が出土している。

(3) 時期不明の遺構

溝

S D8102は、調査区北端で検出した。ほぼ東西方向に延びる幅0.1～0.3m、深さ約5cmの浅い溝である。第123-6次調査で検出されたS D8046と約1.8m隔てて平行する。

S D8103は、調査区西辺で検出した幅約0.3m、深さ約5cmの東西溝で約4.9m東に延びて途切れる。このS D8103の南約1.6m隔てた位置に規模・方向をほぼ同じくするS D8104があり、S D8103と平行している。S D8105は、方向を南に振るがS D8104の東に延びる延長部分と判断される。

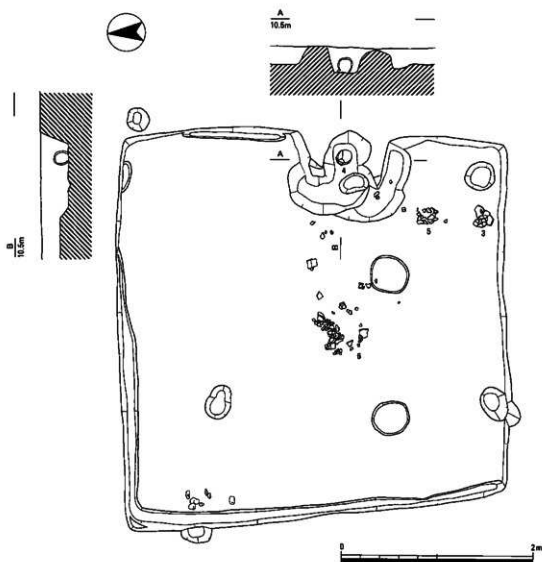
S D8106は、調査区中央で検出された幅約0.6m、深さ約0.2mの東西溝である。溝方向はE 5°Nである。S B8101と重複し、遺構の重複関係からS B8101より新しい。

S D8107は、S D8106の南で幅約0.8m、深さ約0.25mの東西溝である。

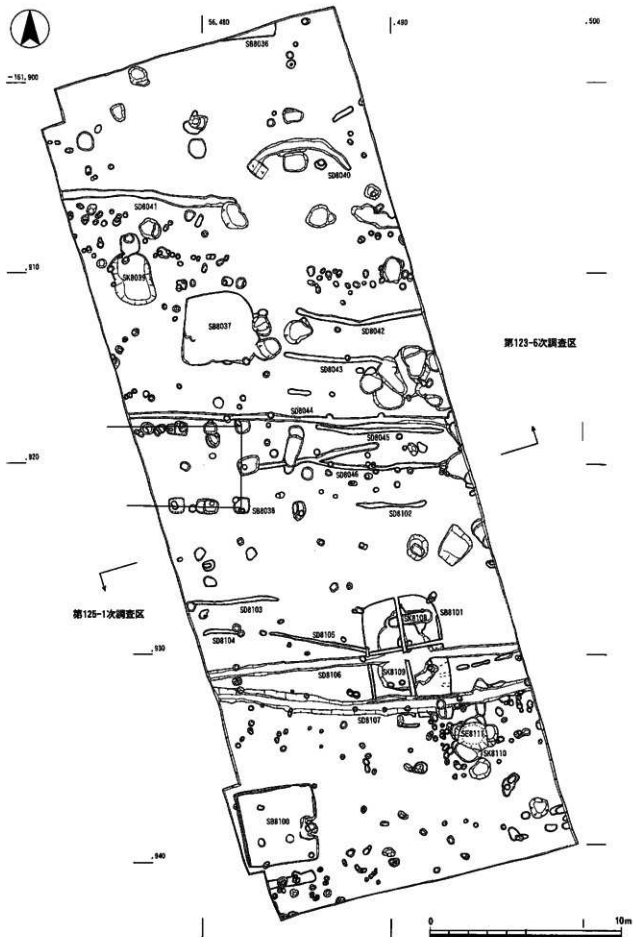
土坑

S K8108は、S B8101に重複する長辺約2.2m、短辺約0.6m、深さ約0.1mの土坑である。重複関係からS B8101、S K8109より新しい。黒色細砂質土を埋土とする。

S K8109は、S B8101の中央に重複する長辺約4.8m、短辺約2.6m、深さ約0.25mの楕円形の土坑である。重複関係からS B8101より新しく、S K8108より古い。このS K8109の遺構としての性格は不明だが、S B8101より一回り小さい堅穴住居や風倒木痕などの可能性が考えられる。土師器鍋が出土している。



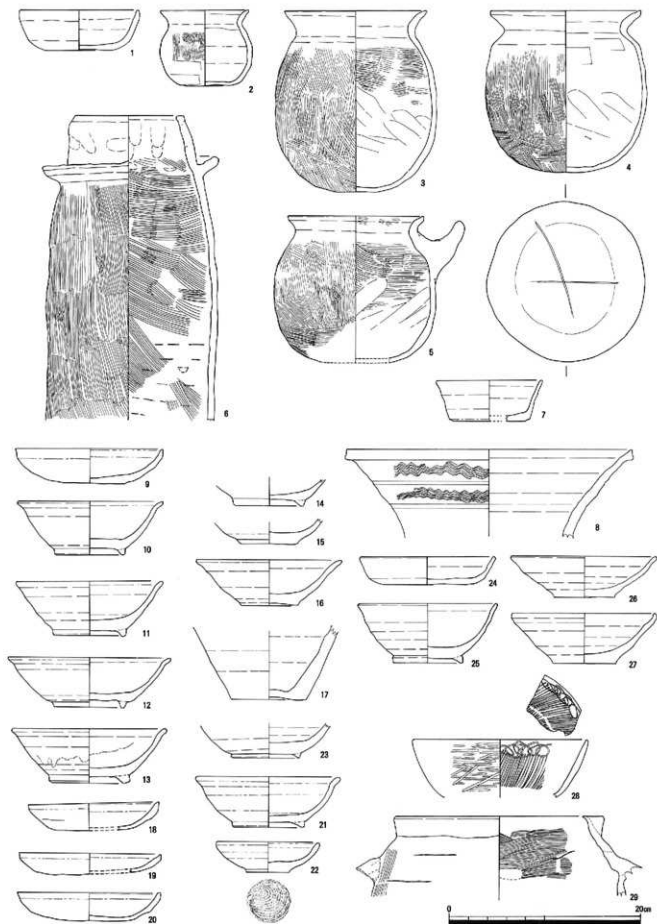
第3図 SB8100実測図(1:40)



第4図 第125-1次調査 遺構実測図 (1:200)

口 遺 物

- S B 8100** 土師器碗(1)・小型甕(2)・甕(3~5)・長胴甕・甌、筒型土製品(6)がまとまって出土した。土師器粗製碗(1)は、口径12.2cm、器高4.3cmである。口縁部は平らな底部から上方に直線的に立ち上がる。粘土紐痕が残り、あまり丁寧な作りではない。口縁部はヨコナデし、底部外面をユビオサエ後ナデ、内面をナデ調整する。(2)は、口径9.0cm、器高8.0cmの平底の小形甕である。口縁部は「く」字状に開く。体部外面は上半部に縦方向のハケ調整、下半部はケズリ調整する。内面は上半部を横方向に、底部を不整方向にナデ調整する。甕は(3~5)がある。(3)は口径14.8cm、器高19.0cm。(4)はカマドからの出土である。口径15.6cm、器高17.1cmである。調整は、外面はともに縦方向のハケ調整をする。内面は(3)が上半部を横方向のハケ、下半部を斜め方向にケズリを施し、底部を不整方向にナデ調整する。(4)は上半部と底部をナデ調整し、下半部を斜め方向にケズリ調整する。口縁部の屈曲は(3)はあまいが、(4)は「く」字状に折り曲げられ、端部をつまみ上げる。(4)の底部外面には「×」のヘラ描きがされる。(5)は口径14.2cmで片方に把手が付く。口縁部をヨコナデし、体部外面をタテハケ、内面上半部をヨコナデ、下半部をケズリ調整する。筒型土製品(6)は、口径11.2cm、最大径18.8cm、残存高31.9cmで鐳が付く。鐳の出は2.0~2.5cmである。これまでに第39次調査(昭和56年度)、第77次調査(昭和63年度)で出土例がある。口縁部は内外面ともにユビオサエの後、荒くナデ調整し、体部は外面に4段以上のタテハケ、内面は上部に横方向の下位に斜め方向のハケメを施す。ハケメの単位は約7本/cmである。内面に粘土の積み上げ痕が約2cm幅で残る。器壁は、口縁部が体部より厚く作られる。体部外面の下位に二次焼成による赤色化が見られる。
- S B 8101** 須恵器杯(7)は口径11.2cm、器高4.2cmである。口縁部は底部からほぼ真っ直ぐに立ち上げた後、わずかに外方に開く。口縁部をナデ調整し、底部外面は切り離した後、不整方向のナデ調整をする。底部と口縁部との境にヘラケズリを施し面取りする。須恵器甕(8)は口縁部のみ残存する。外面に4~5条の波状文が2段施される。
- S E 8111** 山茶碗(10~14)は底部が厚く、体部の形状は丸みを帯びる。口縁端部は強いナデによって外反する。高台は断面方形である。瀬美産と考えられる。(15)は後述する(22)と同系統のものである。糸切り未調整の小さい底部から口縁部が直線的に立ち上がり、端部はやや外反する。(17)は須恵質の壺の底部である。器壁は厚く、底部に粗痕が残る。
- S K 8110** 土師器杯(18~20)は口径13.7~14.9cm、器高2.3~2.4cmである。断面弓状で口縁端部をわずかにヨコナデ、底部はユビオサエ後ナデ調整する。(22)は一見するとロクロ土師器を思わせるが、山茶碗と考えられる。明黄色で底部は糸切り未調整であるが、擬高台様に造りだしており、高台を意識していると思われる。山茶碗(21)は、口径15.3cm、高台径7.1cm、器高5.4cmである。口縁部は内弯して開き丸みを帯びる。端部は強いナデのため外反する。高台は逆台形である。内面に自然釉が付着する。
- S D 8103** 山茶碗(23)は底部のみ残存する。高台は径6.8cm、断面逆台形である。
- 包含層** 包含層からは土師器杯(24・28)、山茶碗(25~27)、カマド形土製品(29)などが出土した。土師器杯(24)の底部は平坦で比較的大きい。(28)は、底部を欠損する。(28)は外面を口縁端部までミガキ調整し、内面上位に螺旋暗文を1段、下位に放射暗



第5圖 第125-1次調査 遺物実測圖 (1:4)

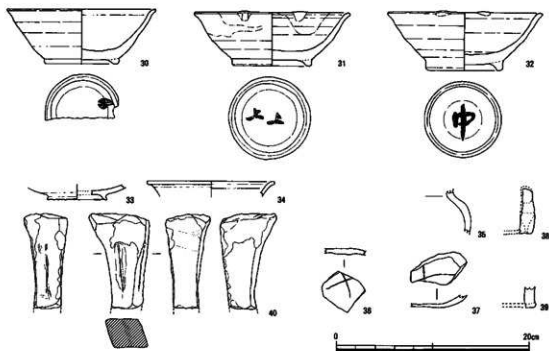
SB8100; 1~6, SB8101; 7~8, SE8111; 9~17,
SK8110; 18~22, SD8103; 23, 包含層; 24~29

文を施す。(26・27)は、底部糸切り未調整の山茶碗である。口縁部は底部から直線的に延びる。(27)は、口縁端部を上方へつまみ上げる。

その他の遺物 上記以外に特殊遺物として、緑釉陶器1片、青磁1片、白磁1片、墨書土器3点、ヘラ掻き土器2点、ミニチュア土器1点、製塩土器、砥石が出土した。墨書土器(30~32)は山茶碗の底部外面に「ㄣ」「上上」「中」と書かれる。ミニチュア土器(35)は土師器で壺と考えられる。

ハ まとめ 今回の調査では、奈良時代の堅穴住居2棟を検出し、史跡西部に当該時期の遺構が広がっていることを改めて確認した。SB8100から一括して出土した土器は、奈良時代のまとまった資料として貴重なものであり、供膳形態をほとんど含まない状況は堅穴住居の廃棄について検討する材料となろう。また、SE8111などから出土した従来のものとは産地が異なると思われる山茶碗も類例の増加を待って今後の研究の課題としたい。

(角正芳浩)



第6図 第125-1次調査 遺物実測図(1:4)

墨書土器: 30~32、緑釉陶器: 33、白磁: 34、
ミニチュア土器: 35、ヘラ掻き土器: 36-37、
製塩土器: 38-39、砥石: 40

3 第125-2次調査（6AES他）

調査場所	多気郡明和町斎宮・竹川地内
原因	水道管埋設工事
調査期間	平成10年9月29日～11年1月26日
調査面積	412m ²



(西地区)

(東地区)

第7図 第125-2次調査 調査区位置図(1:5,000)

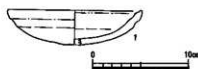
- 1) はじめに 今回の現状変更は、県道伊勢小俣松阪線(旧参宮街道)内において老朽水道管の布設替え工事に伴うものである。旧参宮街道路面下は、NTTの旧ケーブルの埋設による攪乱によって大部分で遺構面が破壊されていることが知られている。調査は、水道管埋設に係る掘削部分の立ち会い調査を実施し、竹神社前から斎宮駅前までを東地区、斎宮小学校前の地区を西地区として土層断面の実測記録を行った。

- 2) 調査概要 調査は工事の掘削範囲に合わせて幅0.7m、総延長590m、深さ1.5mで実施した。

イ 遺構 NTTの旧ケーブルによる破壊を免れた箇所では現道路面下約50cmで遺物包含層が確認された。遺構と考えられる埋土の異なる部分も数カ所で確認された。しかし、調査範囲が狭小であるため遺構としての性格も判断しがたい状況にある。方格地割道路側溝に相当する地点で遺構と考えられる黒色粘質土の層が約3.3mにわたって確認され、埋土中から土師器杯(1)が出土した。この遺構は、確認された位置から牛葉西区画と鈴池西区画の区画間道路の北側側溝と想定される。

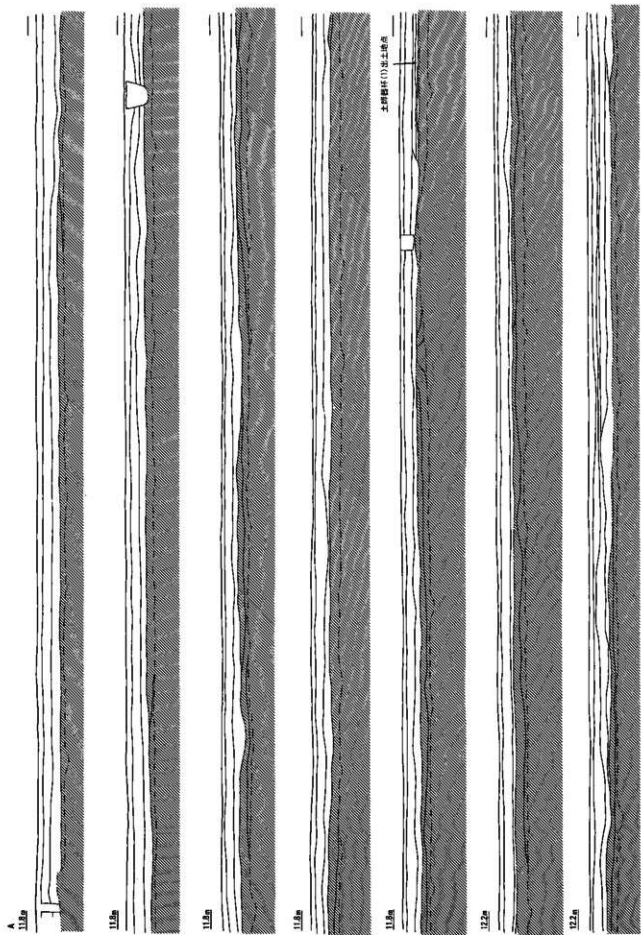
ロ 遺物 土師器杯(1)は、口径14.0cm、器高4.2cmである。断面弓状で比較的厚い器壁の口縁部のみヨコナデし、底部をオサエ後ナデ調整する。平安時代後期と考えられる。

ハ まとめ 今回の調査では区画道路側溝と考えられる遺構を確認した。旧参宮街道内ではNTTの旧ケーブルによる遺構の破壊が大部分でされているものの、なかには包含層の残存している地点もあることが確認され、今後の調査の目安となる。

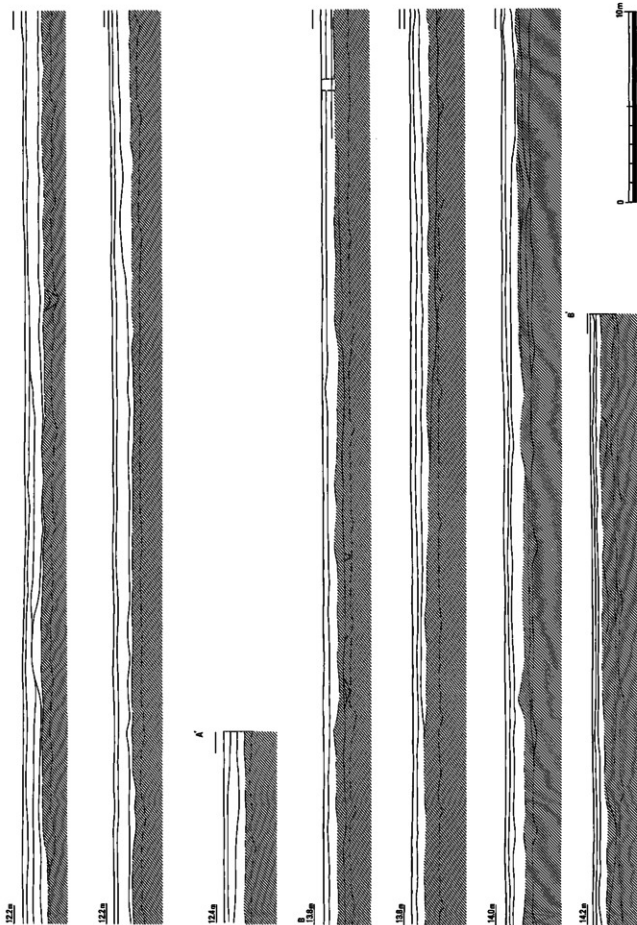


(角正 芳浩)

第8図 第125-2次調査 遺物実測図



第9図 第125-2次調査 土層実測図1 (1:200)



第10図 第125-2次調査 土層実測図2 (1:200)

4 第125-3次調査 (6 ADD-R)

調査場所 多気郡明和町斎宮字篠林3146番地
原因 倉庫の新築
調査期間 平成10年12月4日～12月28日
調査面積 60㎡



第11図 第125-3次調査 調査区位置図 (1:5,000)

- 1) はじめに 今回の申請は、歴史の道沿いの畑地に倉庫を建てるものである。史跡指定地内では中央の北端にあたる。周辺では、第53-7次調査(昭和59年度)・第76-1次調査・第76-13次調査(昭和63年度)が実施され、奈良時代の堅穴住居、掘立柱建物、土坑、溝が検出されている。

2) 調査概要

イ 遺構

調査区は調査対象の畑地の方向に合わせ長辺10m、短辺6mの長方形に設定した。遺構検出面までの深さは約0.4mである。基本的層序は第1層暗灰色土(耕作土)、第2層灰黄褐色土(遺物包含層)、第3層黒色土である。遺構検出面は黄色土である。検出した遺構には土坑2基、溝6条がある。S K8115はさらに西側へ続くため規模は不明であるが1辺2m前後の隅丸方形、S K8116は1辺1.5m前後の隅丸方形、検出面からの深さはともに0.2m前後である。S D8117は検出面の幅が1.6m、溝底で1.0m、深さ0.8m前後の逆台形の溝である。溝の傾斜は南から北へ低くなっており、溝の振れはN8°Eである。S D8118は溝幅0.5m、深さ0.1m前後で、やはり傾斜は北が低くなっており溝の振れはN10°Eである。その他の浅い溝は耕作に伴うものであろう。

ロ 遺物

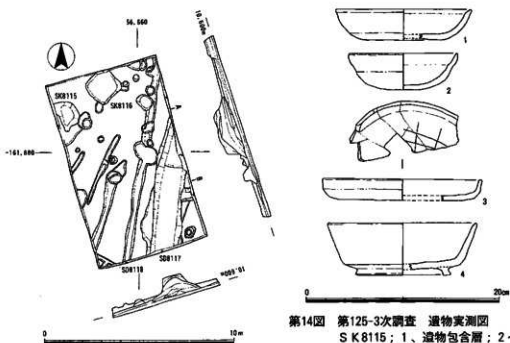
S K8115・8116からは奈良時代後期の土師器杯・蓋・甕、須恵器杯・甕が出土している。また、S D8117からも土師器杯・甕・鍋、須恵器長頸壺・甕が出土している。いずれも破片であるが、溝底から出土した鍋の把手の部分から奈良時代のもものと判断される。全体的に遺物の出土量は少なく、整理箱で3箱分である。

(1)はS K8115出土の土師器杯で、口径14.2cm、器高3.1cmである。体部外面は2/3をヨコナデし、底部はオサエ後ナデ調整する。口縁端部の外反は弱く、端部は丸くおさまる。(2~4)は包含層出土遺物である。(2)の土師器杯は口径11.4cm、器高3.7cmで深い碗状のものである。口縁部は外反した後、端部がやや内弯する。口縁端部の一部に油煙の痕跡が残る。(3)の土師器皿の内面には「#」状の沈線がみられる。(4)は須恵器杯で高台がつく。内面に灰白色の付着物がみられる。

ハ まとめ

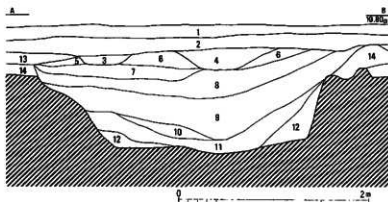
今回の調査で確認したS D8117・8118は南側で行われた第76-1次調査でも検出されている。S D8118の時期は不明であるが、S D8117の埋没の時期は奈良時代でも古く8世紀前半と考えられる。さらに南北に続くと思われるが、約100m南西で実施された第33次調査(昭和55年度)では検出されていない。また、北側については調査例がなく不明

である。周辺で確認されている掘立柱建物や竪穴住居の向きとは一致せず、区画施設としての溝といった性格のものではないと考えられる。さらに、溝の埋土の堆積状況からは一度に埋まったものではなく、掘り返しが行われていた可能性も想定される。今後の両側での調査でその規模、性格の解明が課題となろう。(上村安生)



第14図 第125-3次調査 遺物実測図
S K 8115; 1、遺物包含層; 2~4

第12図 第125-3次調査 遺構実測図 (1:200)



第13図 第125-3次調査 S D 8117土層断面図 (1:40)

- 1 暗灰色土 (耕作土) N3/0
- 2 灰黄褐色土 (遺物包含層) 10YR 4/2 に黄褐色土 2.5Y8/8 5 ~ 10mm粒含む
- 3 黄褐色土 2.5Y5/3
- 4 黄褐色土 2.5Y5/3 と黄褐色土 10YR 8/8 の混入土
- 5 黄灰色土 2.5Y4/1
- 6 黄褐色土 10YR8/8 に暗灰色土 2.5Y4/2 5 ~ 20mm粒含む
- 7 褐灰色土 10YR4/1
- 8 黄褐色土 2.5Y5/4
- 9 黒色土 10YR2/1
- 10 灰色土 5Y4/1 に黄褐色土 2.5Y8/8 5 ~ 20mm粒含む
- 11 にぶい黄色土 2.5Y6/4 と暗灰色土 2.5Y4/2の混入土
- 12 明黄褐色土 2.5Y6/6 に暗灰色土 2.5Y4/2 と褐色土 5YR6/8 の 5 ~ 20mm粒含む
- 13 暗灰色土 2.5Y4/2
- 14 黒色土 2.5Y2/1

5 第125-4次調査（6ACN）

調査場所 多気郡明和町斎宮字広頭
原因 町道側溝の布設替工事
調査期間 平成11年1月7日～2月5日
調査面積 74㎡



第15図 第125-4次調査 調査区位置図 (1:5,000)

1) はじめに 今回の申請は、方格地制西側で斎宮小学校東門に通じる東西方向の町道において北端の排水路を取り替えるものである。周辺では昭和52年度の第15次調査で四脚門が確認された他、斎宮小学校周辺での現状変更にかかる調査が行われている。

2) 調査概要

イ 遺構 調査区は、道路北端に沿って、幅約0.7m、東西長約105mで設定した。調査にあつては、既存排水路を撤去し、新設の排水路を敷設していくため、工区を西からA・B・Cの3地区に分けて実施した。

調査の結果、東西方向の溝5条とこれに交わる溝1条と土坑1基が検出されたほか、調査区の西部で小穴を検出した。小穴は、遺構とは考えがたく樹木等の朽ちたものと思われる。遺構の時期は、S D8119から近代の瓦・陶磁器が出土しているのみで、他の溝の時期は、出土遺物が少ないこともあり断定できない。

S D8119は、調査区西端約17mからはじまり、調査区北端に沿って東へ約44m続き、溝が集中する調査区中央部で北方の調査区外に延びる。検出した遺構は、溝の南肩及び南法面であり、幅0.3m以上、深さ0.2m～0.5mと考えられ、溝東部では、幅約0.5m、深さ約0.2mとなっている。ちなみに溝底の標高は、西端で11.85m、東端で11.55mである。

この溝底では、護岸に打ち込まれた木杭が残っており、現在の排水路とも重複していることから、既存排水路に先立って素掘り溝で護岸の杭を伴っていた時期があったと思われる。溝内からは、棧瓦及び陶磁器類が出土している。

S D8120は、調査区中央部で調査区を横断するように弧状をなしている。幅約0.5m、深さ0.1m～0.4mで黒褐色粘質土（黒ボク）を埋土とする。S D8119・S D8121と重複関係にあり、S D8119より古いのが、S D8121との新旧関係は不明である。

S D8121は、調査区中央で調査区と直交するように検出された。東側が段状となり幅は0.6m～0.8mで、深さは0.1m～0.2mである。S D8119・S D8120と重複しS D8119よりは古いのが、S D8120との重複関係は不明である。

S D8122は、S D8119の延長方向に位置するが、埋土・深さも異なり、別の遺構と判断している。溝の北肩と北法面を確認しており、幅約0.4m、深さ約0.1mである。東部でS K8123と重複し、S K8123より新しい。

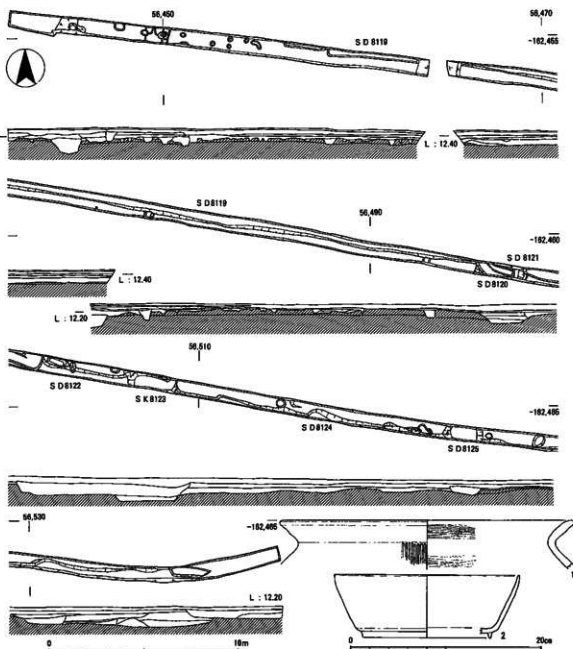
S K8123は、東西約2.3mの土坑状の遺構として検出したが、両側で北方向に延びる溝状の遺構が取りつく。西側では、幅0.5m、深さ0.1mで、S K8123とは約0.2mの高低差がある。東側では、幅約0.5m、深さ0.5mで土坑底部と同じ高さとなる。

S D 8124は、調査区東部で確認された溝であり、調査区の南端で肩のみ検出しており、東へ約22m延びた地点で幅0.4m以上、深さ約0.3mの溝として検出している。S D 8125と重複関係にあるが、新旧は明確でない。

S D 8125は、調査区東部でS D 8124に直交する状況で検出され、幅約2m、深さ約0.4mである。S D 8124との新旧関係は不明であり、また土坑の可能性もある。

口 遺物 出土遺物は、整理箱1箱ほどであり、調査区西部で奈良時代の土師器甕(1)・須恵器杯(2)等が出土した以外は、近代の棧瓦・陶磁器類が大半を占める。

ハ まとめ 今回の調査で確認した溝は東から南へ約10°振れる方向をもつものであり、史跡東部の方格地割が北から西へ約4°振れるのとは大きく異なる。また、奈良時代の古道が、東から南へ約15°振れるのに近いが、遺構の時期が新しく直接的な関係はないものと考えられる。強いて、方向の問題に言及すれば、史跡西部においては奈良時代以降、近世にいたるまで東から南に振る方向性が地割りにも反映していると言えよう。(駒田利治)



第16図 第125-4次調査 遺構実測図 (1:200)

第17図 第125-4次調査 遺物実測図

付篇 史跡現状変更等許可申請

平成10年度中の斎宮跡にかかわる史跡現状変更等許可申請は、30件提出された。このうち発掘調査を行ったのは、史跡の実態解明のための計画発掘調査が2件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが3件あった。(他に前年度申請に伴う調査が1件ある。)

そのほかの25件については、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないもので、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館並びに明和町教育委員会職員の立ち会いを実施している。

10年度の申請の内容は、一覧表のとおりであり、これらの申請を(A)個人等から申請されるもの、(B)公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、(C)史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、(D)史跡の実態解明のための計画発掘調査を実施するに当たっての申請に分けることができる。

(A) 個人等による申請

個人等による申請は18件あった。そのうち保存管理計画における土地利用区分のうち第二種及び第三種保存地区に該当する申請は、農業用施設や資材置き場のための整地など4件あり、内3件は規模が簡易なものであり、倉庫建設について事前の発掘調査(第125-3次調査)を実施した。

他の14件については、個人住宅等の撤去および建設で土地利用区分の第四種保存地区にあたる。

申請の取り下げがあった1件以外は、工事立会いを条件に許可を得ており基礎の掘削の深さが地下遺構まで達せず、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

(B) 公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は9件の提出があり、その内容は、道路の舗装や側溝等の改修が5件、電柱等の設置や撤去が3件、水道管の布設替え1件である。この内調査が対象となったものは、水道管理股に伴う第125-2次調査と側溝布設替えに伴う第125-3次調査の2件があり、その他はについて工事立会いで着工している。

(C) 史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

史跡の整備及び活用に伴う申請が1件ある。その内容は史跡整備地内へ町政40周年事業として、記念植樹であった。

(D) 計画的発掘調査のための申請

これは、三重県教育委員会が主体となり、斎宮歴史博物館が担当して実施しているもので2件の申請が提出され、1,178㎡が調査された。これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行されている。

(中野敦夫)

第2表 平成10年度現状変更等許可申請一覧表

	申請地	種別	申請者	変更内容	申請受付日	許可日	変更面積	区分	備考
1	斎宮字牛業3395-2地	A	袖岡 静馬	個人住宅の新築	10.4.20	10.5.13	64.59㎡	4	
2	斎宮字鍛冶山2369-5	A	谷 昭治	個人住宅の新築	10.4.28	10.6.10	79.07㎡	4	
3	斎宮字鍛冶山2745-2	A	木戸口 眞澄	個人住宅の撤去	10.5.13	10.6.10	1棟	4	
4	斎宮字中西2743	A	木戸口 勇	個人住宅の改築	10.5.22	10.6.10	33.12㎡	4	
5	斎宮字鍛冶山1地内	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	10.6.8	10.7.22	978㎡	2	第124次調査
6	斎宮・竹川地内	B	明和町(水道課)	水道管の埋設	10.6.10	10.6.30	L=1,400m	3	第125-2次調査
7	斎宮字広瀬地内	B	明和町(建設課)	側溝布設替え	10.6.17	10.7.10	L=140m	3	第125-4次調査
8	竹川字古里591-1	A	池田 幸泰	農業用倉庫の改築	10.6.26	10.7.13	67.79㎡	4	
9	斎宮字鈴池地内	B	明和町(建設課)	町道のオーバーレイ	10.7.6	10.7.27	L=90m	3	
10	竹川字中垣内地内	B	明和町(建設課)	町道のオーバーレイ	10.7.6	10.7.27	L=200m	3	
11	斎宮字鍛冶山2748-1	A	木戸口 眞澄	倉庫の撤去	10.7.14	10.7.27	104.13㎡	4	
12	竹川字南裏239-1	A	樋口 武生	個人住宅の新築	10.8.3	10.8.14	62.5㎡	4	
13	斎宮字牛業2995-2地	A	森下 貴弘	個人住宅の新築	10.8.10	10.8.31	104.34㎡	4	
14	斎宮・竹川地内	B	多気郡農業共同組合	有機放送施設の撤去	10.8.17	10.9.1	136本	1-4	
15	斎宮字御館地内	B	明和町(建設課)	町道のオーバーレイ	10.9.1	10.9.18	L=30m	1	
16	斎宮字広瀬地内	B	明和町(建設課)	町道のオーバーレイ	10.9.1	10.9.18	L=160m	1	
17	竹川字古里地内	C	明和町(企画振興課)	町制40周年事業に係る植樹など	10.9.16	10.9.25	3本	1	
18	斎宮字中西614	D	三重県教育委員会	計画発掘調査	10.9.22	10.10.27	200㎡	3	第126次調査
19	竹川字南裏239-1	A	樋口 武生	浄化槽の設置	10.10.9	10.10.21	3.6㎡	4	
20	斎宮字東殿2918-1	A	野田 節雄	個人住宅の新築	10.10.14	10.10.22	65.41㎡	4	
21	斎宮字篠林3164	A	中井 忠明 中井 好子	資材置場の整地	10.10.20	10.11.17	397.6㎡	3	
22	斎宮字東殿地内	B	日本電信電話㈱ 三重支店	電話柱・支線の新設	10.10.30	10.11.24	電話柱1本 支線1本	1	
23	斎宮字東殿地内	B	日本電信電話㈱ 三重支店	電話柱・支線の新設	10.10.30	10.11.24	電話柱2本 支線1本	1	
24	斎宮字内山3039-2地	A	田中 正敏	店舗の改築等	10.11.4	10.12.17	280.37㎡	4	11.3.26取り下げ
25	竹川字中垣内地内	A	島村 有一	個人住宅の新築	10.11.18	10.12.10	52.99㎡	4	
26	斎宮字内山3068-3地	A	澄野 亘	個人住宅の新築	10.11.18	11.1.27	120.69㎡	4	
27	斎宮字篠林3146	A	美浪 悦三	倉庫の建築	10.11.24	11.5.24	60㎡	3	第125-3次調査
28	斎宮字古里3269-5	A	森井 伸嘉	離れの建築	11.1.13	11.2.1	12.42㎡	4	
29	斎宮字内山3060	A	中川 昭	農業用ビニールハウスの設置	11.2.5	11.2.12	270㎡	2	
30	斎宮字内山3060	A	中川 昭	農業用打ち込み井戸の設置	11.2.19	11.3.3	1ヶ所	2	

第3表 竪穴住居一覽表

第125-1次調査

遺構番号	規模 (m)	長軸方向	深さ (cm)	柱穴 (cm)	カマド	時期	備	考
S B8100	4.1×4.1	N 4° W	10	○	東	奈良後期		
S B8101	4.0×6.7	E 4° N	35	○	東	奈良後期		

第4表 遺物観察表

第125-1次調査

No.	出土遺物	容 器	産 量	調査・技法の特徴	給 上	焼 成	色 調	残存率	備 考	登録番号		
1	S B8100	土 器 壺	(口徑) 12.2m (器高) 4.3m	口縁部ヨコナテ 外蓋オキ ム底ナテ	密	良好	内:黄褐色 外:黄褐色	10YR 8/6 10YR 8/6	50%		R 18	
2	S B8100	土 器 壺	(口徑) 8.0m (器高) 8.0m	口縁部ヨコナテ 外面ナテハ ケズリ 内蓋ナテ	密	やや不良	内:ぶい黄褐色 外:ぶい黄褐色	10YR 7/4 10YR 7/4	80%		R 19	
3	S B8100	土 器 壺	(口徑) 14.6m (器高) 19.0m	口縁部ヨコナテ 外面ナテハ ケ 内蓋上部ヨコナテ 下 キズリ	密 0.5m大の 砂粒含む	やや不良	内:ぶい黄 褐色 外:ぶい黄 褐色	7.5YR 7/4 10YR 6/2 7.5YR 6/4 7.5YR 6/1	80%		R 21	
4	S B8100	土 器 壺	(口徑) 15.6m (器高) 17.1m	口縁部ヨコナテ 外面ナテハ ケ 内蓋上部・底面ナテハ ケ 下キズリ	密 0.6m大の 砂粒含む	良好	内:黄褐色 外:ぶい黄褐色	2.5Y 7/3 5YR 7/4 10YR 7/4 5YR 6/8	60%	底面外側に「X」へう 跡	R 22	
5	S B8100	土 器 壺	(口徑) 14.2m (器高) 15.3m	口縁部ヨコナテ 外面ナテハ ケ 内蓋ナテ ケズリ	密 0.5m大の 砂粒含む	良好	内:黄 外:黄褐色	7.5YR 7/6 7.5YR 7/8 10YR 6/8	50%	片手把子付	R 20	
6	S B8100	土 器 壺 甕蓋土器山 茶瓶	(口徑) 11.2m (残存高) 11.9m	口縁部ヨコナテ 内蓋ヨコナ テ	密	やや不良	内:ぶい黄褐色 外:ぶい黄褐色	10YR 7/3		底面欠損	R 23	
7	S B8100	甕蓋 壺	(口徑) 11.2m (器高) 4.3m	胴縁ナテ 胴縁ヘラケズリ へう跡ナテ	2mm大の砂粒含む	良好	内:オリーブ灰 外:オリーブ灰	5.5GY 6/1 5GY 6/1	60%		R 16	
8	S B8100	甕蓋 壺	(口徑) 30.0m (残存高) 9.3m	胴縁ナテ 底状文	密	良好	内:灰 外:灰オリーブ	N 5/ 5Y 5/2	30%	底状文4～5条3段	R 17	
9	S E8111	ワロコ餅 餅	(口徑) 15.4m (器高) 3.8m	口縁部胴縁ナテ 底面赤切 未調査 内蓋ナテ	密	良好	内:ぶい黄 外:黄褐色	7.5Y 7/4 7.5Y 7/8	100%		R 8	
10	S E8111	陶 器 山茶瓶	(口徑) 15.2m (器高) 5.1m (高台径) 7.4m	胴縁ナテ 底面赤切後ナテ 高台筋ナテ	密	良好	内:灰黄 外:灰黄	2.5Y 7/2	100%		R 14	
11	S E8111	陶 器 山茶瓶	(口徑) 15.4m (器高) 5.4m (高台径) 7.6m	胴縁ナテ 底面赤切後ナテ 高台筋ナテ	密	良好	内:灰白 外:灰白	10YR 7/1	100%		R 13	
12	S E8111	陶 器 山茶瓶	(口徑) 17.2m (器高) 5.2m (高台径) 7.3m	胴縁ナテ 底面赤切後ナテ 高台筋ナテ	密	良好	内:灰黄 外:灰黄	2.5Y 7/2	40%		R 11	
13	S E8111	陶 器 山茶瓶	(口徑) 16.2m (器高) 5.2m (高台径) 8.5m	胴縁ナテ 底面赤切後ナテ 高台筋ナテ	密	良好	内:灰黄 外:灰黄	2.5Y 7/2	100%		R 10	
14	S E8111	陶 器 山茶瓶	(口徑) 17.2m (残存高) 5.6m (高台径) 7.4m	胴縁ナテ 底面赤切未調査 高台筋ナテ	密	良好	内:黄灰 外:黄灰	10YR 6/1		底面のみ	R 9	
15	S E8111	陶 器 山茶瓶	(口徑) 17.2m (残存高) 2.6m (底径) 6.0m	胴縁ナテ 底面赤切未調査	密	やや不良	内:灰黄 外:灰黄	2.5Y 6/2 2.5Y 7/2		底面のみ	R 12	
16	S E8111	陶 器 山茶瓶	(口徑) 15.2m (器高) 4.3m (高台径) 6.0m	胴縁ナテ 底面赤切未調査	密	やや不良	内:灰黄褐色 外:灰黄褐色	10YR 6/2	100%		R 6	
17	S E8111	甕蓋 壺	(口徑) 17.2m (残存高) 7.7m	胴縁ナテ	密	良好	内:灰 外:灰	7.5Y 6/1 3Y 6/1		底面のみ	底面特異形	R 7
18	S K8110	土 器 壺	(口徑) 13.7m (器高) 2.8m	口縁部ヨコナテ 外蓋オキ ム底ナテ 内蓋ナテ	密	良好	内:ぶい黄 外:ぶい黄褐色	7.5YR 7/3 7.5YR 7/4	80%		R 2	
19	S K8110	土 器 壺	(口徑) 14.8m (器高) 2.2m	口縁部ヨコナテ 外蓋オキ ム底ナテ 内蓋ナテ	密	良好	内:ぶい黄 外:ぶい黄	7.5Y 7/4 7.5Y 7/4	50%		R 3	
20	S K8110	土 器 壺	(口徑) 14.9m (器高) 3.0m	口縁部ヨコナテ 外蓋ナ テ 内蓋ナテ	密	良好	内:黄褐色 外:黄褐色	2.5YR 7/3 2.5Y 7/2		底面	R 1	
21	S K8110	陶 器 山茶瓶	(口徑) 15.2m (器高) 5.4m (高台径) 7.1m	胴縁ナテ 底面赤切後ナテ 高台筋ナテ	密	良好	内:灰黄 外:灰黄	2.5Y 7/2	100%		R 4	
22	S K8110	陶 器 山茶瓶	(口徑) 10.9m (器高) 4.3m	胴縁ナテ 底面赤切未調査	密	やや不良	内:黄褐色 外:黄褐色	10YR 7/6	100%		R 5	
23	S D8103	陶 器 山茶瓶	(口徑) 17.2m (残存高) 2.4m (高台径) 6.0m	胴縁ナテ 底面赤切後ナテ 高台筋ナテ	密 2mm大の 砂粒含む	良好	内:灰白 外:灰白	5Y 7/1 5Y 7/2		底面のみ	R 15	
24	組合	土 器 壺	(口徑) 14.0m (器高) 2.9m	口縁部ヨコナテ 外蓋オキ ム底ナテ 内蓋ナテ	密	良	内:黄 外:黄	5YR 6/6	45%		R 27	
25	I-24 遺骨等	陶 器 山茶瓶	(口徑) 13.8m (器高) 2.4m (高台径) 6.0m	胴縁ナテ 底面赤切後ナテ 高台筋ナテ	密	良好	内:黄褐色 外:灰白	2.5YR 7/2 5YR 7/2	50%		R 24	
26	I-24 遺骨等	陶 器 山茶瓶	(口徑) 13.1m (器高) 2.7m	胴縁ナテ 底面赤切未調査	密	良	内:ぶい黄褐色 外:ぶい黄褐色	10YR 6/4 10YR 7/4	50%		R 26	
27	I-24 遺骨等	陶 器 山茶瓶	(口徑) 14.6m (器高) 2.9m	胴縁ナテ 底面赤切未調査	密	良	内:ぶい黄褐色 外:ぶい黄褐色	10YR 7/4	80%		R 25	

報 告 書 抄 録

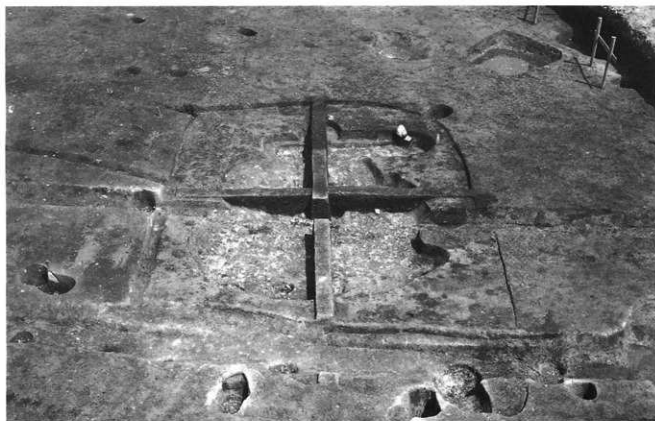
ふりがな	しせきさいくうあと へいせい10ねんどげんじょうへんこうきんきゅうはくつちようさほうこく
書 名	史跡 斎宮跡 平成 10 年度 現状変更緊急発掘調査報告
副 書 名	
巻 次	
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	16
編 著 者 名	駒田利治・上村安生・大川勝宏・角正芳浩・石淵誠人・中野教夫
編 集 機 関	斎宮歴史博物館
所 在 地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503番地 TEL.0596-52-3800
発 行 年 月 日	2000年3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市 町 村	遺跡番号					
斎 宮 跡	多気郡明和町斎宮他	24442	210	34° 31' 55" / 34° 32' 30"	136° 36' 16" / 136° 37' 37"			
第125-1次 調 査	斎宮字塚山3337-1他					19980403 ~980514	336	盛土整地
第125-2次 調 査	斎宮字竹川					19980929 ~990126	412	水道管埋 設
第125-3次 調 査	斎宮字篠林3146					19981204 ~981228	60	倉庫建設
第125-4次 調 査	斎宮字広願地内					19990107 ~990205	74	側溝改修
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
第125-1次 調 査	宮 殿	奈良~ 平安	堅穴住居、溝、井戸		土師器、山茶碗			
第125-2次 調 査		奈良~ 鎌倉	溝		土師器			
第125-3次 調 査		奈良	土坑、溝		土師器、須恵器			
第125-4次 調 査		奈良~ 明治	溝		土師器、陶磁器			

圖 版



調査区全景（北から）



S B 8101、S K 8108、S K 8109（南から）



S B 8100 遺物出土状況（西から）



S B 8100 調査後（西から）



調査区全景（南から）



S D 8117（南から）



A工区 調査区全景（西から）



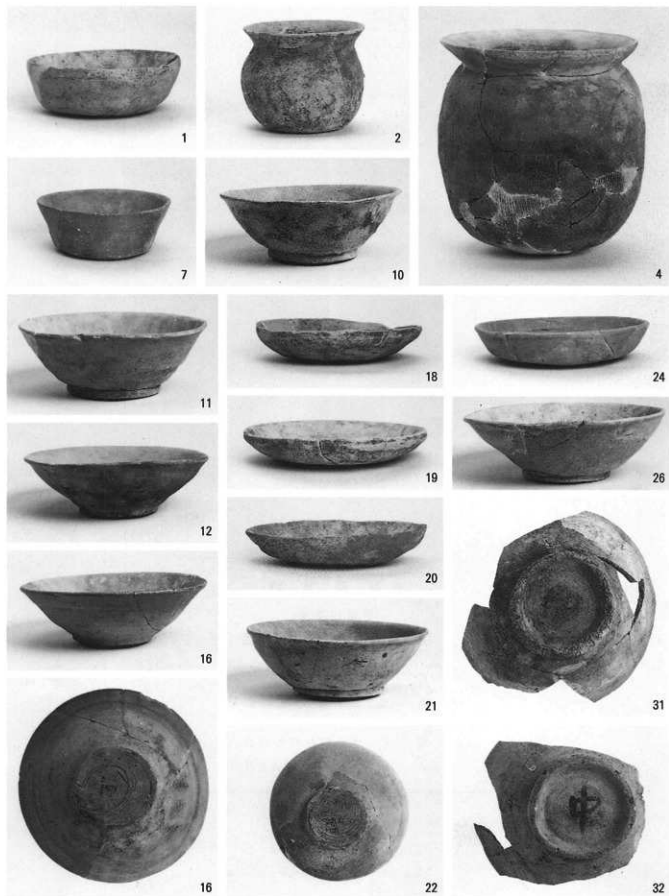
A工区(2) 調査区全景（西から）



B工区 調査区全景（東から）



S K 8123・S D 8124（東から）



史跡 齋宮跡

平成10年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成12年3月24日

編集 齋宮歴史博物館
明和町教育委員会
発行 明和町教育委員会
印刷 光出版印刷株式会社
